

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 福岡市博多区東公園7番7号
管理機関名 福岡県教育委員会
代表者名 教育長 城戸 秀明

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年5月8日(契約締結日)～令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学 校 名 福岡県立香椎高等学校
学校長名 矢ヶ崎 裕和
類 型 プロフェッショナル型

3 研究開発名

ファッション都市福岡「ファイナルディスティネーションプラン2030」

4 研究開発概要

福岡市は成長著しいアジア諸国に我が国で最も近く、経済や文化、環境など様々な分野で緊密な交流を行ってきた歴史があり、今後もアジアの活力を取り込み、アジアを向いた一大拠点としてその役割を果たしながら、アジアと共に発展していくことが可能な地理的条件と優れたネットワークを有している。

しかし、福岡市では人口が増加しているにもかかわらず、ファッション業界は、東京一極集中で空洞化が進み、地場産業は有能な人材を雇用することができていない。本校は、北米、ヨーロッパ、東京で活躍するなど、有能な人材を輩出しており、さらにこれらの卒業生には、地域を愛し、凱旋したいという者が多くいるものの、雇用がないために福岡での活躍ができない状況にある。このような状況を解決するために、地元大学、地場産業などと連携・協働することで、課題解決を図り、ファッション業界における継続可能な循環を作りたい。

また、就職した後に退職する理由として、理想とのギャップや就業形態への不理解が上げられることから、自己の能力や理想と就業先のミスマッチに課題が見受けられる。

そこで、本校が核となり構築した、福岡県、福岡市、地元大学、福岡商工会議所や地場産業等、多様な業界のプロフェッショナルな人材を参集したコンソーシアムにより、「福岡ファッションインキュベータ」を設立し、商品開発から流通・販売までの流れを探究するとともに、福岡を愛する高度な資質・能力を身に付けた人材を育成する。また、個人の適性に応じたファッション業種に関する情報を提供することにより、マッチングミスのない、将来活躍が期待できる業種の選択ができる環境を構築する。

5 教育課程の特例の活用の有無

無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				○							○	
コンソーシアム会議			○	○		○	○	○	○		○	
研究推進委員会		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明

ア コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

所 属・職 名	氏 名
公立大学法人福岡女子大学 国際文理学部教授 博士(教育学)	森 邦昭
福岡大学 商学部教授 博士(学術)	田村 馨
香蘭ファッションデザイン専門学校 教員 一級婦人服子供服製造技能士	内田 智子
(一社法)教育ソリューション研究協議会 非認知能力推進育成アドバイザー	長谷川絵美
(一社法)進路指導・キャリア教育支援機構 教育顧問	西田 将浩
株式会社ワールドストアパートナーズ 九州支店人事	松本 誠
B I N D株式会社 代表取締役	吉田 透
福岡県教育庁教育振興部高校教育課 課長	井手 優二
福岡県立香椎高等学校 校長	矢ヶ崎裕和
※ アドバイザー 福岡市経済観光文化局 国際経済・コンテンツ部コンテンツ振興課エンターテイメント係長	東島 正太

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年6月25日 (第1回) ※オンラインで実施	<input type="checkbox"/> 議事 ・年間活動概要 ・福岡ファッションインキュベータ設立に係る具体的計画 ・福岡ファッションインキュベータの構成・機能
令和2年8月6日 (第2回) ※オンラインで実施	<input type="checkbox"/> 報告 ・ファッションデザイン科の活動について ・福岡ファッションインキュベータ設立に係る業務の進捗状況 <input type="checkbox"/> 議事 ・福岡ファッションインキュベータ規約について ・福岡ファッションインキュベータの協力団体について ・プログラムの開発について
令和2年9月24日 (第3回) ※オンラインで実施	<input type="checkbox"/> 報告 ・ファッションデザイン科の活動について ・福岡ファッションインキュベータ設立に係る業務の進捗状況 <input type="checkbox"/> 議事 ・ホームページの作成について ・設立記念行事について
令和2年10月22日 (第4回) ※オンライン併用で実施	<input type="checkbox"/> 報告 ・ファッションデザイン科の活動について ・福岡ファッションインキュベータ設立に係る業務の進捗状況

	<input type="checkbox"/> 議事 ・福岡ファッションインキュベータ運営体制について ・福岡ファッションインキュベータ設立に係る行事予定について
令和2年11月26日 (第5回) ※オンライン併用で実施	<input type="checkbox"/> 報告 ・ファッションデザイン科の活動について ・福岡ファッションインキュベータ設立に係る行事について <input type="checkbox"/> 議事 ・福岡ファッションインキュベータの運営体制について ・本年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係るプログラムの立案について
令和2年12月24日 (第6回) ※オンライン併用で実施	<input type="checkbox"/> 報告 ・ファッションデザイン科の活動について ・福岡ファッションインキュベータの活動について <input type="checkbox"/> 議事 ・令和3年度の福岡ファッションインキュベータの運用に向けて ・福岡ファッションインキュベータ構成企業等の募集・勧誘について
令和3年2月18日 (第7回) ※オンラインで実施	<input type="checkbox"/> 報告 ・ファッションデザイン科の活動について ・福岡ファッションインキュベータの活動について <input type="checkbox"/> 議事 ・令和3年度の福岡ファッションインキュベータの運用に向けて ・福岡ファッションインキュベータ構成企業等の募集・勧誘について ・卒業生アンケートについて

イ カリキュラム開発等専門家について

①指定した人材（都度依頼し謝礼払い）

公立大学法人福岡女子大学 国際文理学科教授 森 邦昭 氏

3年次の商品開発など地域貢献につながるカリキュラムの開発に繋げるために、1年次から実践的・発展的に学べる探求活動を検討し、教科・科目横断的カリキュラムの開発に関する、指導・助言を行った。

②活動日程・活動内容

実施日程	実施内容
令和2年 6月25日	・コンソーシアム会議において、専門的知見からのカリキュラム構築に係る指導・助言及び協議
令和2年 8月 6日	
令和2年 9月24日	
令和2年10月13日	・地域と協働で行う活動を取り入れたカリキュラム構築に係る指導・助言
令和2年10月22日	・コンソーシアム会議において、専門的知見からのカリキュラム構築に係る指導・助言及び協議
令和2年12月24日	
令和3年 2月18日	

ウ 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材（都度依頼し謝礼払い）

(一社法) 教育ソリューション研究協議会

非認知能力育成アドバイザー 長谷川 絵美 氏

キャリア教育に係る教材の開発及びこれを使用した教育支援活動、商品の開発に関する探究的な学習活動のファシリテーションに関わる業務を行った。

B I N D株式会社 代表取締役 吉田 透 氏

商品の企画から販売まで一貫した「商品企画実習」に関する探究的な学習活動のファシリテーションに関わる業務を担うとともに、福岡ファッションインキュベータの設立に関する具体的な方策について、指導・助言を行った。

②実施日程・実施内容

実施日程	実施内容
令和2年 6月25日	・コンソーシアム会議において、専門的知見からのカリキュラム構築に係る指導・助言及び協議
令和2年 8月 6日	
令和2年 9月24日	
令和2年10月22日	
令和2年11月26日	
令和2年12月24日	
令和3年 2月18日	・ホームページ作成について指導・助言及び協議 ・ECサイト開設に向けて指導・助言
令和2年10月 ～12月	

エ 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
坂元美貴子	香蘭女子短期大学 教授 ファッション総合学科長	ファッション教育
横溝紳一郎	西南女学院大学 教授 学生部長	英語教育
大塚 知弘	日本経済大学経済学部教授 福岡キャンパス事業推進部長	経済学
相原 幸子	学校法人文化学園 文化服装学院 学院長	ファッション教育
白石 豊	ESMODJAPON ジェネラルディレクター	ファッション情報
桂 由美	滋慶文化学園 福岡ブライダル&ホテル・観光専門学校 名誉学校長	デザイン
徳満 泰彰	Shopify Country Evangelist Shopify パートナーシップ兼事業開発部長	経営・流通支援
三ヶ田浩二	(一社法) 教育ソリューション研究協議会 キャリア教育デザイナー 地方創生ビジネスディベロッパー	キャリア教育
西田 将浩	(一社法) 進路指導・キャリア教育支援機構 教育顧問	カリキュラム開発
大坪 弘幸	福岡県高等学校家庭科研究会 会長 (福岡県立東鷹高等学校 校長)	研究・広報支援
有吉 弘幸	福岡県産業教育振興会家庭部会 会長 (福岡県立折尾高等学校 校長)	研究・広報支援
西岡 潤史	福岡商工会議所産業振興部長 (福岡アジア拠点推進会議事務局)	研究・広報支援
山北 智子	福岡県商工部新事業支援課長	部局行政
井手 優二	福岡県教育庁教育振興部高校教育課長	教育行政

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年7月9日 (第1回) ※オンラインで実施	□議事 ・年間活動概要 ・福岡ファッションインキュベータ設立に係る具体的計画 ・福岡ファッションインキュベータの構成・機能
令和3年2月25日 (第2回) ※オンラインで実施	□報告 ・研究開発の実施状況 □議事 ・令和3年度福岡ファッションインキュベータ運用に向けて ・令和3年度の活動について

オ 管理機関における取組について

- ①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について
 - ・校内の研究推進委員会への参加
 - ・運営指導委員会及びコンソーシアムへの参加、指導・助言
 - ・県の事業等における支援の実施
- ②事業終了後の自走を見据えた取組について
 - ・県の事業等による支援の実施
 - ・継続的な事業実施を可能とするための教育委員会支援体制整備の検討

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「ファッションデザイン」における商品企画演習			14h	16h								
科目「ファッションデザイン」における商品企画実習					6h	12h	13h	14h	14h	10h		
科目「服飾手芸」における商品製作実習			2h							4h		
科目「ファッションデザイン」における福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画（ファッションショー）								5h	7h			
科目「総合的探究の時間」における福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画（展示・物販）					5h	6h	2h					
科目「ファッションデザイン」によるのみ工芸との協働事業			2h	6h	3h							
科目「ファッションデザイン」による香椎宮ファッションショー				3h				2h	8h			

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア カリキュラムの構築

本校は平成28年度から30年度までの3年間、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの研究指定を受け、高度な資質・能力を育む産学接続型教育プログラムの開発を行い、外部協力機関と連携・協働した実践的な活動をカリキュラムの中に組み込んでいる。それらの活動の一つに商品を企画・製造し販売を行う「商品企画実習」があるが、今年度は、新型コロナウイルスの影響により、対面での販売実習は実施できなかったため、ECサイトによる販売に関する学習を充実させ、実施した。

(<https://connect-fashion.shop>) 今後はファッション業界もオンラインでの販売が増加していくことが想定されるため、eコマースに関する内容を充実させていきたい。また、この実習を「商品企画」「縫製」「経営」「販売」の4つの分野に分類し、福岡ファッションインキュベータを活用し、生徒の特性や進路希望に応じて、外部協力機関や卒業生と本校生徒が連携・協働しながら学べるカリキュラムを構築したい。

イ 福岡ファッションインキュベータ設立

「商品企画」「縫製」「経営」「販売」の4つの分野について、学校だけでは習得が困難な、より高度で実践的な技能を習得しながら、職業観を育成することができるシステムの構築を目指し、11月12日に調印式を実施し設立に至った。今年度は6団体

(一般社団法人進路指導キャリア教育支援機構、株式会社ワールドストアパートナーズ、小竹正株式会社、障害福祉サービス事業所なのみ工芸、B I N D株式会社、福岡リーセントホテル)に加入いただいております、次年度からの運用計画を作成し、運用を開始する準備を整えた。

ウ 福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画

公立学校共済組合福岡支部より学校貢献活動の一環として、福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画について提案いただき、生徒作品の展示、物販、ディナーショー形式のファッションショーを実施した。7月～1月までの間、合計6回の合同企画会議を実施し、生徒が提案した企画内容について、ホテルスタッフから助言・指導をいただきながらプランニングし実施した。現場の厳しさを直接聞くことができ、学校では経験することのできない深い学びとなった。

エ 障害福祉サービス事業所なのみ工芸との協働事業

なのみ工芸では生地(さをり織)を生産し、商品に加工して販売をしている。昨年度、販売商品(コースター)の縫製業務への協力依頼を受け、今年度正式に業務委託契約を結び縫製業務を開始した。また、さをり織を使用した新しい商品を企画し提案をした。今後も、新しい企画を提案し、商品化を目指したい。

オ 香椎宮ファッションショー

本校の近くにある香椎宮との連携事業として、境内でファッションショーを実施した。保護者をはじめ多くの卒業生や地域の方々にご来場いただき、地域の方々に双方の魅力を発信した。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

ア 「ファッションデザイン」(3年次)

商品企画実習に入る前の商品企画演習では、地域の産業や事業所などの抱える課題を見出し、その解決に向けて商品を企画する活動を行った。また、商品企画実習では、グループ内で協力・分担して作業を行い、(一社法)教育ソリューション研究協議会の長谷川氏らの指導・助言や、地域の大学生の意見を反映させながらブラッシュアップして商品のクオリティ向上に係る探究を行った。

イ 「ファッションデザイン(商品企画)」(3年次)

なのみ工芸の協働事業を通して、実際に商品として販売されるものを縫製し、丁寧に縫製することは勿論のこと、これまであまり意識してこなかった規格通りに仕上げることなど商品製作に係る重要性に気付くことができた。

ウ 「服飾手芸」(2・3年次)

文化祭で販売する目的で、商品を製作した。また、SDGsの観点から、残布を活用した商品作りにも取り組んだ。

エ「総合的な探究の時間」(2年次)

福岡リーセントホテルでの展示・物販では、作品の展示や「服飾手芸」で製作した商品を販売するなどした。その際、既習の内容を活用してディスプレイ方法を検討したり、商品説明のポップ等の準備を行った。

オ 「ファッションデザイン(産業)」(3年次)

今年度のファッションショーは新型コロナウイルスの影響から3回の実施となったが、実施場所や客層を踏まえてショーの構成や演出を協議し、企画を練るなど充実した内容となった。香椎宮でのファッションショーでは、屋外での夕刻開催であったが、神社ならではの雰囲気を生かした演出を工夫することができていた。福岡リーセントホテルのファッションショーでは、ポスターを制作したり、ホテル周辺でポスティングを行うなど集客のための活動を学ぶことができた。ディナーショー形式だったため、テーブルコーディネートも考え、ホテルスタッフの方に指導・助言をいただきながら、お客さまに喜んでいただくために工夫をした。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目における学習を相互に関連させた教科（科目）横断的な学習について

ア 「コミュニケーション英語Ⅱ」（2学年）

次年度のファッションショーに向けて考えた衣装のデザインについて「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業でプレゼンテーションを行った。本来は、2月に実施予定だった1年生のイングリッシュキャンプの際に、ALTや下級生に向けてプレゼンテーションを行う予定だったが、コロナ禍でイングリッシュキャンプが中止となったため、クラス内での実施となった。

イ 芸術鑑賞（2学年）

令和2年6月に本校近くの商業施設内に、歌劇ザ・レビューHTBの専用劇場である歌劇ザ・レビューシアターがオープンしており、芸術鑑賞会を実施した。

ショーの開演前に、劇団員の方に直接話を伺う時間を設けていただいたり、運営スタッフに説明いただいたりすることができた。2年生は、次年度のファッションショーに向けて準備を始めており、音響や照明も含めたショーの演出や衣装の見せ方等、大変参考になった。また、ショービジネスに興味があり、舞台衣装の製作に携わりたいという生徒もおり、可能であれば福岡ファッションインキュベータへの加入も見据え、今後ご支援をお願いしたい。

④成果の普及方法・実績について

ア 令和2年度福岡県産業教育振興会家庭部会学科主任会議での発表

令和2年12月3日、本校を除く県下9校の学科主任に向けて、本事業の概要や実施内容、11月に設立した福岡ファッションインキュベータについて、本校学科主任から説明し周知を図った。

イ リーフレット・ポスターによる広報

福岡ファッションインキュベータのリーフレットやポスターを制作し、広く周知を図った。

ウ インスタグラムによる発信

本校のファッションデザイン科公式インスタグラムでは、生徒目線で情報の発信を行っている。

エ 学校ホームページの活用

本校の広報課と連携し、学校ホームページに本事業の内容を随時掲載、更新している。

オ 「共済福岡」への掲載

公立学校共済組合福岡支部が発行している「共済福岡」第213号・第214号に、本校と福岡リーセントホテルとのコラボレーション企画「箱崎JKプロジェクト」についての、特集記事が掲載された。第213号では展示・物販について、第214号ではファッションショーについて、生徒たちがホテルスタッフの方々に助言を受けながら、試行錯誤して準備を進めている過程が掲載されている。

カ 福岡リーセントホテルでの展示・物販

令和2年10月から令和3年3月まで、生徒が製作した商品と一緒に、生徒が縫製を行った「なのみ工芸」のねこコースターも販売した。12月18日からは、ECサイトで販売しているCONNECT:の商品（ワンピース）やポスターも展示し、ホテル利用者の方々への広報活動を行った。

⑤校内の研究開発体制について

毎月1回会議を開催し、課題項目についてコンソーシアム会議で得られた指導助言をより効果的な教育活動として実践できるよう活動した。

課題項目	事業担当責任者
事業全体の管理・運営 運営指導委員会・コンソーシアムの組織化・運営	矢ヶ崎裕和（校長） 松永真由美（事務長） 西嶋 祐子（事業主任）
福岡ファッションインキュベータの創設・運用	矢ヶ崎裕和（校長） 高木 浩信（教頭） 西嶋 祐子（事業主任）
研究推進委員会の運営	西嶋 祐子（事業主任）
カリキュラム開発・検証と改善及び実施	福原 操織（学科主任） 江口 馨一（教務部長）
ファッション業種適正評価方法開発	西嶋 祐子（事業主任） 福原 操織（学科主任）
ファッションイベント企画・運営実習	下山 清美（家庭科教諭） 松尾 澄江（家庭科常勤講師）
商品企画実習	西嶋 祐子（事業主任） 福原 操織（学科主任）
商品販売実習	安永 久子（家庭科教諭） 江口 潤（家庭科教諭）

8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) カリキュラムの構築について

スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業で構築した本校独自のカリキュラムを、本事業の目標達成に向けてより深化させていきたい。

令和4年度から新学習指導要領が施行されるのを機に、学校設定科目「ファッションビジネス」を設置し、この中で商品企画実習を行う予定である。現在は、3年次に「ファッションデザイン」の中で実施をしているが、新課程では2年次に2単位、3年次に3単位実施予定であるため、他の専門科目とのバランスも検討しながら、ビジネスの視点を強化し、商品の企画から販売まで一貫した深い学びとなるように学習内容を組み立てていきたい。

また、アフターコロナを見据えて、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、3年間のカリキュラムをもう一度見直して指導内容の精選をしていく必要がある。また、本校では以前からクロスカリキュラムが推進されており、多くの実践がなされてきた。家庭科内だけでなく他教科の先生方とも積極的に情報交換を行い、専門科目と関連づけた授業を展開していただくことで、学びの深化を図りたい。

(2) 福岡ファッションインキュベータについて

1月に設立をすることができた。現在6団体が加入しており、次年度は商品企画実習の「商品企画」「縫製」「経営」「販売」の4分野それぞれで支援をいただける環境を整えることができた。今後は加入団体を増やしていくことと、加入団体が相互に交流できるネットワークの構築も進めたい。また、次年度は作成した運用計画を実施しながら、妥当性を検討し、令和4年度からの継続的な運用に向け、必要があれば軌道修正をしていきたい。

(3) ファッション業界を担う人材の育成について

生徒が身に付けた知識や技能を客観的に測る指標となるものに、検定試験の合格率がある。目標設定シートで目標値を設定している色彩検定とファッション販売能力検定以外にも被服技術検定（洋服1級93.9%、和服1級100%）やサービス接遇検定（2級87.9%、準1級72.7%）を全員が受検しており、専門的な知識や技能は身に付いていると考えられる。

また、今年度の3年生の進路選択の状況は、ファッション関連が71.9%であったが、入学時に希望していたファッション関連の進路を、途中で変更した生徒もおり、志を持って入学してきた生徒がファッション関連の進路を選択しなかった理由についても検証していきたい。また、ファッション関連の進路を選択した生徒の多くは専門学校等への進学となっており、より専門性を高めたいという意図がうかがえる。

<添付資料> 目標設定シート

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 専門性の向上

本校では、外部講師を活用した質の高い専門的な授業を実施しているが、今年度はコロナ禍により実施できなかったものも多い。また、事前・事後の指導の時間が十分に確保できなかったり、実施時期に偏りがあったりと課題も多かった。また、限られた時間の中で、最大の成果をあげられるよう、外部講師に頼らなくても指導ができるよう、教員の指導力向上に向けて研修も行っていきたい。

(2) 商品企画実習に係る財源の確保

本校の商品企画実習は、生徒が製作した作品を文化祭で販売し、その売り上げを翌年の材料費にすることで、サイクルを継続してきた。2年前から、ECサイトでの販売を開始したことで、以前よりも経費がかかるようになり、これまで循環させていた資金だけでは不十分になってきている。ECサイトでの売り上げで必要経費を補填し、資金を循環させていくことができるような方策や県教育委員会からの支援を要請する必要がある。

(3) 福岡ファッションインキュベータの運用

今年度は福岡ファッションインキュベータを設立し、人材育成のシステムの基礎を作ることができた。完成年度である来年度は、このシステムを機能させ、生徒たちにさらに高度な資質や能力を身に付けさせるとともに、そうした活動の中で生徒各々が職業観を形成し、将来の職業選択に役立てられるようにしていきたい。どのような支援が有効なのかを十分に検討し、実際に運用をするにあたっては、事務的な業務なども生じてくるため、業務の内容を明確にしなが、スムーズに運用できるシステムを構築していきたい。

また、FFI協力団体等が協働し福岡のファッション業界を活性化することができるような支援ができればよいと考える。

(4) ファッション業種適正評価プログラムの開発

高等学校在学中に、ファッションに関する商品の企画から製作、販売までを経験をさせることで、自分の適性を知り就職時のミスマッチを防ぐことができるであろうという仮説に基づき、自分の適性を見極めることができるよう、3年次の進路決定の前に現場での実習等のプログラムの実施を考えていたが、コロナ禍で行うことができなかった。次年度はプログラムの開発に向けて、可能であれば実施をしたい。

また、生徒の適性を客観的に判断する方法についても検討していきたい。

(5) 生徒の意識改革

高校魅力化評価システムの結果によると、本校の生徒は話し合ったり、相手の意見を丁寧に聞いたり協働で活動することは得意としているが、探究的な学習活動を行っているにもかかわらず、それが行動実績として表れていないという結果が出ている。また、本校生徒の傾向として地域の行事に参加したり、地域の大人と関わったりする機会が少なく、社会性に関する地域貢献意識や社会参画意識が他の実施校と比較すると低いという結果が出ている。残念ながら、将来自分は今住んでいる地域で働きたいと考えている生徒は少ないのが実状である。今年度は、地域の施設や神社でイベントを実施する機会を持つことができたが、そのような機会を可能な限り増やし、自分たちの取組が地域の活性化につながり貢献できていると実感させるとともに、価値あることを認識させ、生徒の意識を地域に向けさせるよう意識改革を図りたい。